

1 研究テーマ

一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

岩手小学校 三枝 清美

2 はじめに

小学校低学年の図画工作での学びが、中学校美術でどのような学びへとつながっていくのか。東山梨の部会では、毎年様々な題材に取り組んできた。造形遊びについても、どんな材料を用意し、どんな場を設定し、どんな手立てを講じるのか、各学年の発達の段階を基に考え実践してきた。低学年では、「並べる」「つなげる」といったシンプルな活動に、形や色、大きさ等を吟味した材料を用意することで、子どもたちは材料の形や色に刺激されながら活動を創造的に膨らませていった。中学年では、大きな段ボールや木の枝等、やや抵抗感のある材料を用意し、組み合わせる材料や場、またグループ活動等を工夫することで、想像力を膨らませ、ダイナミックな活動へと展開していった。

では、高学年ではどうか。教科書を見ると、「材料や場所の特徴を基に発想し想像力を働かせてつくる」とあり、特徴的な場所を飾っていく活動が紹介されている。東山の部会研究でも、教職員の手立てによって、子どもたちが生き生きと創造的に活動を広げていった実践がある。しかし、実際には、なかなかそのような実践ができなくて、悩んでいる教職員も多い。私もその一人である。以前受けもった6年生では、子どもたちが自分たちが用意した材料を思うように扱えなかったり、飾るための小道具づくりに没頭するあまり活動が広がらなかったりと、十分な造形活動ができなかった。低学年の時のように、シンプルに活動に没頭させてあげたかったと思う。

一方、新学習指導要領では、〔共通事項〕(1)アが「A表現」「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」として示された。私たちは、より一層、形と色などの造形的な特徴を意識して題材を仕組み、また評価していくことになる。つまり、題材を通して、子どもたちが形や色について「気づいているか」「自分の考えをもっているか」「気づいたことを基に活用しているか」を見とっていかなければならないのである。果たして、見とり切れるのだろうか。

それらの課題を踏まえ、東山の部会で研究されてきた造形遊びにおいて、再考してみた。高学年の子どもたちが、形や色に常に注目し、新たな気づきを得ながら、没頭して造形活動を広げていく。しかも誰でもすぐに実践できる。そんな造形遊びができないだろうか。そうすれば、「形や色で十分に遊び、試行錯誤し、造形活動に没頭する」姿勢を育成することにつながるだろう。それこそが、中学校美術へつなげる大切な力であると考えた。

以上のような視点から、題材や手立ての工夫を考えてみた。

3 研究のねらい

高学年の子どもたちが、活動そのものに没頭し、形や色に常に注目し、新たな気づきを得ながら造形活動を広げていくことのできる題材と手立ての工夫をしていく。

4 研究の方法

- ・指導案検討（題材、目標、材料、場の設定、授業の流れ、発問、評価方法、支援・手立ての検討）
- ・授業研究による検証
- ・授業後の研究会で考察及び成果と課題のまとめ

5 授業実践

題材の目標	場所や空間などの 特徴 を基に、どんな活動をするか発想したり構成を考えたりしながら、材料の形や色、飾り方を工夫して活動する。	
学習内容	4年	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、新しい形や色などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えること。A表現(1)ア ○材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に働かせ、活動を工夫してつくること。A表現(2)ア ○身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。B鑑賞(1)ア ○自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。共通事項(1)ア ○形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。共通事項(1)イ
	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。A表現(1)ア ○活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。A表現(2)ア ○親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。B鑑賞(1)ア ○自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。共通事項(1)ア ○形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。共通事項(1)イ
題材名	いつもの場所にプラスして 〈A表現(1)ア(2)ア及びB鑑賞(1)ア共通事項(1)アイ〉	
評価規準（題材の学習指導における具体的な評価規準）※太字は5年生		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じ（造形的な特徴）が分かっている。（理解している）。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">共通事項ア</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">形 色</p> <p>② つくりだそうとしている場所（空間）に合った材料の使い方や方法の組み合わせ方などを試したり工夫したりしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> ためそう！ 工夫しよう！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px; margin-top: 5px;"> 思いに合わせて 工夫しよう！ </div>	<p>① 場所や空間の特徴を基に、自分なりのイメージをもちながら、どんな材料をどのように飾るか思い付いている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> いろいろ 考えよう！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px; margin-top: 5px;"> 思いに合わせて 考えよう！ </div> <p>② つくりかえつつある場所を基に新たな形や色を思い付いたり、空間及び周囲の様子を考え合わせたりしながら、どう飾るか考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> いろいろ 考えよう！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px; margin-top: 5px;"> 思いに合わせて 考えよう！ </div> <p>③ 感じたり話したり、話し合ったりしながら、つくりかえつつある場所や空間の造形のよさや面白さ、美しさや表現の特徴、変化などについて感じたり考えたりしている。鑑賞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> 見つけよう！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px; margin-top: 5px;"> 見つめよう！ </div>	<p>① 材料や場所、空間などの特徴に合わせて、進んで（主体的に）形や色などに関わり、新しい場所や空間につくりかえることを楽しみながら、表現したり鑑賞したりしようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> 進んでやって 楽しもう！ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px; margin-top: 5px;"> 思いをもって 楽しもう！ </div>

題材の計画（全4時間）					
		評価規準と評価方法			学習活動
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
第一次	1 45分	①行動観察・ 発言・記述	①行動観察・ 発言・記述	①行動観察・ 発言	1 様々な場所の形や色などの造形的なよさや面白さ、美しさなどを見付け、どんな形で飾っていくか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・校内を周り、造形的なよさや面白さ、美しさを見付ける。 ・飾りたい場所を決める。 ・どう飾るか考え、ワークシートに記入する。
	2 45分	②行動観察・ 発言・造形	②行動観察・ 発言・造形		
第二次	3 60分				
	4 30分		③視線・発言・ 会話・記述		

※経過画像、最終的な造形などを参考に分析、評価を整理する。

※各評価は加点的におさえ、他の題材との関連を図る。

題材の分析

1・2年時には、材料の形や色、質感や、並べることで表れていく造形的な面白さなどを味わいながら、活動を楽しんだ。3・4年時には、光の当たる場所を基にしたり材料の組み合わせから新たに発想を広げたりした造形活動を行い、材料や場所と相互に関わり合いながら発想が刺激され、新たな形や色、組み合わせなどの面白さやよさを見付けることができた。

本題材では、場所や空間などの特徴に目を向け、そのよさや面白さ、美しさを生かす材料を使って飾り、新たな場所や空間をつくりあげていく。今回は、飾る材料を絞ることにより、4年生は形や色などの感じに、5年生は造形的な特徴（動き、調子、強さ、変化など）に注目させたい。さらに、活動前後の場所や空間の変化から、自分たちの造形活動のよさや面白さ、美しさを振り返り、その意味や価値に気付くようにさせたい。場所によっては、グループでの活動も予想される。互いの考えを交流させることで、発想を刺激し合うことが期待できるが、個々のもつイメージや発想も大切に生かされるように留意したい。一人ひとりがイメージを膨らませ、新たな発想や表現に広がっていくように、場所の選定、材料、ワークシートを工夫していきたい。

また、4、5年生という異学年の特徴を生かしつつ、互いの考えや思い、見方、表し方など、それぞれのよさが交流、共有されるよう、言葉掛けも意識していきたい。評価においては、4、5年生の発達の段階に留意しながら、観点を明確にし、行っていく。

本時の学習

- (1) 日時 平成30年8月29日(水) 5校時(14:00~15:00)
 (2) 場所 岩手小学校 4・5年教室, 3階廊下, 階段踊り場, 玄関など
 (3) ねらい 形や色などの造形的な特徴に注目し, 視覚的に確かめながら工夫して場所や空間をつくる。

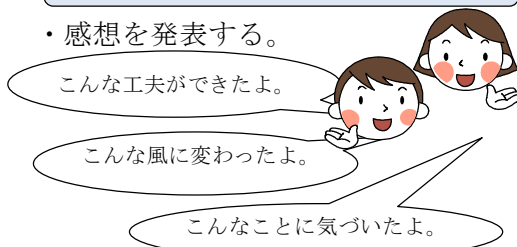
(4) 展開

過程	学習活動と内容 ○: 予想される反応例	支援と評価 ○: 指導上の留意点 ◆: 主な評価 【 】: 評価方法 ♥: 支援
つかむ 5分	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p style="text-align: center;">いつもの場所にプラスして 形や色を確かめながら, 飾っていこう。</p> <p>改めてみるとどうかな?</p> <p>ここをこう変えてみたらどうかな?</p>	<p>○4つの力を提示し, 「鑑賞の力」を基に, 「発想や構想の力」「創造的な技能の力」を発揮することを伝える。 ○おおよその時間を知らせ, 本時の見通しをもたせる。</p>
追及する 50分	<p>2 つくりかえつつある空間及び周囲の様子を考え合わせながら, さらに飾っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの飾り方を繰り返す。 ・新たな飾り方を試す。 ・変化を確かめつつ, 友人と意見交換しながら活動する。 <p>遠くから見たらどうだろう?</p> <p>歩きながら見たらどう見える?</p> <p>風が吹いたらどう変化するかな?</p> <p>光の当たり方はどうだろう?</p>	<p>○つくりかえてきた造形を確かめながら活動を進めることで形や色の造形的な特徴を捉えることができるよう, 視点を意識させる。 ○光や陰, 風などの周囲の環境による造形の変化にも気付かせるような言葉掛けをする。 ○友人と意見を交換しながら進めるグループもあるが, 個々の感覚や考えも生かされているか確かめたり, 見取ったりする。</p> <p>態度一①【行動観察・発言】 ♥活動が停滞している児童には, 視点を換えさせたり, 教員の感じたよさや面白さ, 美しさを伝えたりして, 活動への意欲を喚起する。</p> <p>思判表一②【行動観察・発言・造形】 ♥材料と場所やその周囲の様子を考え合わせているかどうかわからない児童には, どんな効果をねらっているのかを聞き取った上で, 様子を見守ったり助言をしたりする。</p> <p>知技一①【行動観察・発言・記述】 ♥つくりかえてきた造形を確かめながら活動を進めていない児童には, 遠くから見せたり, 歩きながら見せたりする。</p>

ま
と
め
る
5
分


3 本時の振り返りをする。

- 感想を発表する。
こんな工夫ができたよ。
こんな風が変わったよ。
こんなことに気づいたよ。
- 次時の予定を確認する。



- 本時での工夫や新たな発見などを発表させ、本時のまとめをする。
- 次時までには、他の造形の以前との変化や新しくつくりかえられた造形を楽しむように伝える。

(5) 板書計画



いつもの場所にプラスして

2:55までに
教室へ

(6) ワークシート

4・5年 図工

いつもの場所にプラスして

名前()

1 選んだ場所は

2 その場所の持ちよう(すてきだな、きれいだな、面白いななど)

3 それを生かすための材料

4 感想

5 他のグループの場所を見た感想

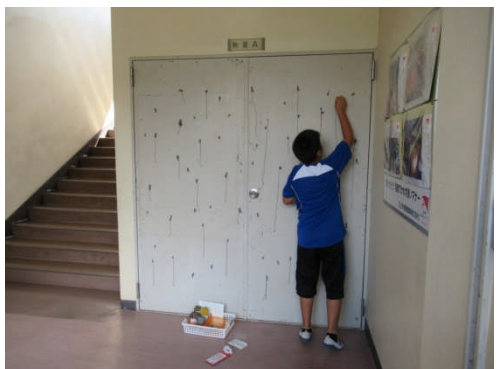
(7) 授業を終えて

【研究会での意見】

- 材料は個々で違っていたが、それぞれイメージに合った材料の選択ができていた。
- 色画用紙や包装紙、色セロハン等、どの学校や学級でも用意できるものを使用していたが、できた造形は校舎の特徴を生かした岩手小の児童らしさが出ていた。
- 今回使用していたテープのりや練消しゴムのような接着剤は、すぐに貼れて貼りかえることもできるので、子どもたちが考えたことをすぐに実行でき、造形遊びに適していた。
- 三角形や四角形、円形などの単純な材料だけで、こんな造形ができるのかという驚きがあった。
- それぞれの発想が楽しかった。子どもがこんな発想ができるのかと驚いた。
- 場所ごとの造形の違いが見られ、様々なバリエーションがあり、材料のよさを生かしていた。発想が生まれるところに、これまでの経験が生きていた。
- 子どもたちそれぞれが、イメージをもって活動を進めていた。迷っている場面も、自分のイメージと合っているのか確認している姿だった。
- 楽しみつつ、考え、見る、という活動が融合していた。形と色を考えている姿は遊びのように見えるが、子どもたちの学びが多い。子どもたちのこれからの成長が楽しみである。
- 人数の少なさは、刺激の少なさにもつながる。色の選び方や様々な見方の学習が、次の造形へのつながりとなるだろう。
- 正面玄関で活動していたグループは、三角形と四角形を飾っていたが、話し合っただけで飾る形と色を選択していた。児童玄関で活動していたグループは、円形だけを飾っていた。その場合、新たな形に向かうための助言も必要かもしれない。
- 指導者の子どもの変化を見とる力が子どもの成長を支えている。その成長が見られた。

【指導・助言】

- 「材料の形を絞る」という手立てでは、ともすれば子どもたちの発想や活動を狭めてしまうが、今回は結果的には効果的だった。
- ドアを飾っていた子は、ドアの特徴を生かして、見る人に奥まで想像させる造形をつくっていた。玄関で活動していた子どもたちは、材料を貼ることで変わる窓の向こうの景色の違いを意識していた。子どもたちはそれぞれねらいをしっかりとっていた。
- 場所や見え方を意識しているつぶやきが聞こえた。こうした資質や能力を耕していくことが大切である。
- 子どもたちは、材料・場所・つくりつつある造形と対話をしていた。子どもたちは、自分たちのつくってきた造形を振り返りながら価値づけをしていく。本時で培った資質は、次の意欲へとつながる。
- 普段子どもたちが生活している場所を見つめ直す機会となった。
- つくり、つくりかえ、つくり続ける活動が見られた。これをどう終結していくかが課題となる。



6 考察・まとめ

- 飾る材料の形を決める際には、その子が場所の特徴やそこから受けるイメージをどう捉えているかを見極めることが鍵となった。ワークシートもその判断材料の一つではあったが、やはり子どものつぶやきや子どもとの対話も大切だった。飾る形を決めてしまうことで、材料をあらかじめ用意することもできるし、飾る際には色と場所に専念できると考えたからである。この点については、ねらい通り、子どもたちは活動に没頭することができた。



- 飾る材料の形を絞ったことにより、子どもたちは場所と材料の色というシンプルな関係で造形を始めていった。出発点がシンプルだったため、子どもたちは形や色といった造形的な特徴に常に向き合うことになり、活動に没頭しながら、発想や造形を広げていくことができた。出発点での要素を絞るといふ、この手立ては効果的であったと考える。



- 低学年での造形遊びと比較すると、「形を並べていく活動」という点では同じである。低学年では、子どもたちの視線は「形を並べることからできる『線』状の造形」であり、並べることやつなげることそのものを楽しむ姿が見られる。今回の高学年では、「形を並べていく活動」という点では低学年と同じである。しかし、子どもたちは、活動から生まれてくる造形の様々な形や色に直面する中で、面の広がりや奥行きなど空間的な視点で追及していく姿が見られた。ねらいをはっきりさせることにより、シンプルな活動でも高学年の造形遊びを充実させることができると感じた。



- 接着剤は、材料の材質と場所により、何種類かのテープのり等を用意した。材料が基本的には紙類だったため、簡単に接着でき、貼り直すのも容易で、活動を進めやすかった。そのため、「形や色」に集中することができた。

- 鑑賞の場面では、それぞれの造形に興味深げに見入る姿が見られた。下から見たり歩きながら見たりと、おもしろい見方で造形を楽しんでいた。活動場所が分かれていたので、授業の中では、互いの活動や造形を見合い、交流する時間が十分には取れなかったが、授業が終わった後も、楽しんでいる姿が見られた。また、他学年の子どもたちや先生方の反応も、子どもたちは楽しんでいた。



- ワークシートは、一人ひとりの場所の特徴の捉えやそれを生かす材料の形や色についての考え、他の造形の鑑賞の様子などを見とるのに役立った。子どもたちの考えや活動を全て把握することはできないが、ワークシートと子どもとの会話から、ある程度は見とって支援に生かすことができた。ワークシートについては、活動時間の保証も考えながら、学習の見通しや学習履歴といった内容を盛り込み自己評価につなげたり、項目数や枠の作り方など記述方法の工夫をしたりといった研究も求められる。
- 行動観察、つぶやきの拾い、会話、ワークシートへの記述、造形、画像記録から評価を行ったが、迷う部分も多くあった。特に、形や色などの理解に関して、「知識・技能」と「思考・判断・表現」のどちらでとるのが難しい。例えば、「知識」としての形と色は、過去の経験で得たものもあれば、まさにその時に得たものもあり、新たに更新されたものもある。その理解を基に発揮されたイメージ「思考・判断・表現」は、頭の中に浮かんで消えてしまうものもあれば、造形として表れてくるものもある。また、この2つは、活動の中でともに関連して働いていて、はっきり2つに分かれて見えるものではない。この評価は分けて行うのは難しく、実際につける段階では、評価者によって変わってしまうことや曖昧につけられることも予想される。この点についても、今後の研究が望まれる。

